

2014年 3月20日

みらいの扉

高等特別支援学校 支援部 第56号



自分の道を 進め！！

支援部長 聳城ゆかり



2013年度が終わろうとしています。年を重ねるごとに一年間がどんどん短くなっていきます。私にとっては本当に目まぐるしく過ぎた一年でした。でも、教師として、人として、得ることも多い一年でした。自分にできる精一杯のことはしてきたつもりですが、もっとできるはずのこと、しなければならないことがたくさんあるのだと思い知らされた一年でもありました。

1年生の皆さんにとってはどんな一年間だったでしょうか。まだまだあどけなかつた入学式を思い起こすと、「ずいぶんたくましくなったなあ」と思われます。

中学まではなかつたルールに戸惑ったり、先生たちからことあるごとに「就職、就職」とせき立てられたり、正直「なんでこんな学校に来ちゃったんだろう」と思った人もいるかもしれませんね。

2年生の皆さんにとってはどんな一年間だったでしょうか。3年生から見れば下級生、でも1年生にとっては上級生。不安な気持ちもあったけど、とりあえず突き進むしかなかった…という人も多かったかもしれません。

次はどうとう最上級生。これから「就職」へ向けての階段を駆け上がっていくわけですが、心と体の栄養は充分たまってますか？



実は3年生も、皆さんと同じようにあどけない顔で入学し、学校のルールに疑問を持ち、先生の指導に反発し、不安を抱

えて進級しながらもとにかく突き進み、それでも仲間同士で信じ合い支え合いながら卒業の日を迎えました。

3月5日の卒業式の日、卒業生たちの背中を、在校生のみなさんはどんな気持ちで見つめていたのでしょうか。

先輩たちとの思い出に浸っていたのでしょうか。それとも、「卒業なんて自分はまだまだ遠い」「先輩たちは偉いなあ」「いいなあ、就職できて」「自分も先輩みたいになれるのかな」「これから自分は何をしていけばいいんだろう」「4月から、新しい気持ちで頑張ろう」…色々思いを巡らせていたのでしょうか。

それぞれ思うことや感じることはあったと思いますが、一番大事なのは、そういう自分の気持ちとしっかり向き合うことだと思います。いざというときに自分の人生の選択を自分でできる力を持って欲しいと思います。自分の人生を楽しくするも苦しくするも自分次第なのです。



人生、足もとをしっかり見て転ばないよう気をつけることも大切です。でも、時折遠くを見渡し、自分が進むべき方向を確認することも大切です。

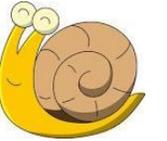
「この学校に何しに来てるんだろう」「毎日つまらないな」「先生たちはうるさいだけ」もしもこんな風に思っている人がいたら、一度立ち止まって、心と体を落ち着けて、自分の気持ちと向き合ってくださいね。「1年後、2年後、5年後、10年後、自分はどうしているだろう。どうしてきたいのだろう。そのために今、自分ができる事って何だろう。」

他人の答えではなく、自分自身の答えを探してください。自分なりの答えが見つかったら、きっと力強く次の一歩が踏み出せると思います。そのとき、同じように悩み迷いながら歩く友達の存在は、何よりも支えになり励みになると思います。自分を、そして友達を大切に。



さて、保護者の皆様にとってはどんな一年間だったでしょうか。普段は特に深く考えることもなく時間が過ぎていきますが、ふと「我が子がもうすぐ社会に出るのだ」と考えると、言いようのない不安や恐怖に駆られる保護者の方も多いのではないかと思います。

子どもたち同様、時折遠くを見渡してみてください。目指すべきものを持った歩みは、スピードはどうあれ安定していて確実です。結局は一日一日を堅実に積み重ねていくことしかできませんが、その積み重ねは着実に目標への道程となるはずですよ。



高校の3年間には、多くの可能性があります。子どもたちの将来へ繋ぐために、学校もできる限りのお手伝いをさせていただきます。

支援部員より ～一年を振り返って～

支援部長（聳城）…持ち授業が無く寂しい日々ですが、学校の中にあふれるたくさんの笑顔や笑い声が何よりの栄養でした。この笑顔や笑い声を守るために、今後も自分にできることに精一杯取り組みたいと思います。一年間、ありがとうございました。

支援副部長（近藤）…学年を離れた立場で、寂しさ戸惑いも感じた一年間でしたが、支援部の仕事の大切さとそれを実行する大変さをかみしめた一年でもありました。「支援」とは一方的なものではなく、双方向的なものでした。来年度も温かい支援をどうぞよろしくお願ひします。

1学年支援部（木戸）…「支援する」とはということか、考えさせられる一年間でした。生徒に伝えたいことはたくさんあっても、その思いが伝わるような人間関係の土台が生徒との間になければ意味がない。支援の第一歩は、その土台を生徒との間に作ることで…と感じました。

2学年支援部（野村）…鳥のヒナが卵からかえるとき、ヒナが卵の中から殻（から）をつつくのと同時に、親鳥も外からつついて、ヒナが殻をやぶり出てくるのを助ける、というお話があります。これ、タイミングを間違えると大変ですよ、特に親鳥のほう。そう考えた一年でした。

3学年支援部（三輪）…18期生の三年間、学年の支援部を担当させていただきました。18期生は40名全員が無事卒業することができました。本当に素晴らしいことです。皆さんの温かい支援があったからだと思います。ありがとうございました。

